

# 平成 29 年度 事業報告書

平成 30 年 5 月 20 日

特定非営利活動法人 志木総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ

(NPO 法人 クラブしっきーず)

理事長 増田 三枝子

電話番号 048-234-9487

## 1. 事業の成果

クラブしっきーずは、文部科学省が策定したスポーツ基本計画に掲げられた『総合型地域スポーツクラブ』として平成 12 年に発足、平成 14 年に NPO 法人の認証を受けた。

当初、宗岡三小ボランティアルーム内にあった事務局は、法人認証後に初代理事長宅へ移り、平成 20 年には組織体制の大きな変革を経て『まちづくり NPO』として空き店舗活用の“ステーション”を開設。法人 10 年目に、3 軒目となる空店舗に移転し、クラブハウス機能を合わせ持つ市民交流の場「まちの縁側」を埼玉県 NPO 基金の助成により整備。設立後 18 年目の現在、他に類をみない「多世代・多様な福祉活動拠点」として、安定した活動が継続できている。

活動の目的は、世代や障がいの有無を問わず地域に暮らすすべての人に対して参画を促し、スポーツ・レクリエーション及び文化活動を実施し、それを通して心の交流を図ることである。それは、まさに「スポーツと福祉とが融合する時代」を体現するチャレンジである。特に、生活圏域を意識して取り組んだ「地域における孤立防止」に的を絞った実践は、埼玉県共同募金会（あかいはね）とスミセイコミュニティスポーツから助成を受け、確実に成果をあげることができた。NPO 基金により整備した“ステーション”は、5 年が経過し、さらに 5 年の契約を交わすことができたのも、クラブ会員の総合力が生み出した、当法人への厚い信頼に他ならない。

さて、前年の報告でも「クラブ組織の新陳代謝」についてふれたが、平成 29 年度はシニアとともに若い世代が活動の担い手となることをめざした。J1 サッカーチーム大宮アルディージャのコーチを迎え、プロのコーチングスキルやコミュニケーション力を目の当たりにした 6 月のイベント。そして、10 月の『志木市キッズチャレンジスポーツ』は、委託事業としてのクオリティを求め、企画ミーティングを重ねた上で、当日の運営にあたった。

この 2 つの事業は、10～30 代がそのフットワークの軽さと対応力の高さをいかんなく発揮し、さらに 40～80 代が各パートでリードまたサポートするという、当クラブの構成員が多世代であることの強みが表出した好例であった。

このように平成 29 年度は、子どもや若い世代は自己肯定感を、シニア世代は自己効力感を確かな手ごたえとして感じられた一年であった。地域で支え合うとは、子ども・障がいのある方を含め、住民全体が参加すること。国が示す新しい総合事業にある『地域住民による通いの場』は、共生型の方向性が示されている。

一人々を区別する既存の枠組みにとらわれない「しっきーず方式」は、地域包括ケアシステム、すなわち『まるごと』へ続いているといえよう。